

(第3種郵便物認可)

「自分が考えるいじめとは」を発表する女子生徒ら
大阪府西区の大阪YMCA国際専門学校で



いじめを考える授業

大阪の
専門学校 24日の撲滅デー前に

世界的ないじめ撲滅

運動「ピンクシャツデー」

1(2月24日)が、

日本でも広がっている。

大阪YMCAは保

育園や高校など運営す

る各事業所で、コンサ

ートやポスター掲示な

どのキャンペーンを展

開。15日には、大阪市

西区の大阪YMCA国

際専門学校高等課程の

「表現・コミュニケーション

学科学科」で、いじ

めを考える授業があっ

た。

ピンクシャツデーは

2007年、カナダの

2人の学生が始めた運

動。ピンク色のシャツ

を着て登校した男子生

徒が「ゲイ」といじめ

られていたため、2人

が友人にピンクシャツ

を配布。大勢の生徒が

そのシャツを着て登校

したエピソードが広ま

り、毎年2月の最終水

曜日が「デー」になっ

たという。

授業があった同学科

は、生徒の約7割が小

中学校で不登校を経験

し、背景にいじめがあ

ったケースもある。3

年生約25人が「自分に

とって、いじめとは何

か」「いじめを受けた

人は何をしたいと思

うか」を発表。過去

の体験を明かし、「嫌

と言えるようになった

かった」「逃げ道を用

意してほしかった」と

話す生徒もいた。

24日当日は、各事業

所の職員がピンク色

ものを身につけて運動

をアピール。通信制・

単位制高校の生徒と2

〜3歳児の交流イベン

トも予定されている。

大阪YMCA国際専門

学校の鍛治田千文副校

長は「キャンペーンを

多様な人の存在を認め

合う機会にしたい」と

話す。【反橋希美】